

緑の架け橋

土屋ゼミナール
現代社会学科有志



クラフト体験教室

5月5日、流山おおたかの森駅南口都市広場で行われた流山グリーンフェスティバルに社会学部現代社会学科の有志が参加した。土屋ゼミが中心となり、誰でも参加できる緑のまちづくりを目標に「ドライフラワー・クラフト体験教室」を開催した。前日の悪天候で順延となったにもかかわらず、当日は64組127名が参加し盛況だった。（撮影・文：石井蓮 撮影：土居省吾）

「ドライフラワーによるクラフト体験教室」は江戸川大学社会学部現代社会学科の土屋ゼミが主催する企画である。つくばエクスプレスが開通した2005年に始まったグリーンフェスティバル。土屋ゼミのドライフラワーによるガーデニングをメインとする。土屋ゼミも、ふだん団体のイベント会場もそのなかのひとつ。流山市は流山グリーンチェーン戦略として、TX沿線開発で「緑の価値」づくりに取り組んでいる。今回、ドライフラワーを使った装飾品づくりを通して、緑の価値を身近に体験してもらおうことを目指している。今回の参加メンバーは土屋ゼミのほかにフィールドワーク研修履修者、情報化学科からのお手伝いなど合計十数人が参加している。



2016 流山グリーンフェスティバル #2

彼らはクラフト体験教室に先だって研修を受ける。この事前研修で、グリーンチェーン戦略の目的、歴史、その効果などを学ぶ。そして当日、学生たちはクラフト体験の参加者のお手伝い、後片付け、来場者のアンケート調査などの活動を行う。

一方、初めて参加した1年生は、「活動は大変だが、体験している人の笑顔を見ると、力がもらえる」と話してくれた。2回目の参加となる3年生は「役割分担や、現場を指揮するのは大変だった」

流山市のキャッチフレーズは「都心から一番近い緑の町」。ここでの緑の価値は行政、江戸川大学、そして地域の人たちみんなが一体となつてつくるものだ。今回のイベントがその「緑の架け橋」となっている。



上：イベントを楽しんでもらうだけでなく、緑のまちづくりや流山グリーンチェーン戦略についてパネルで説明もしている。中右：受付を担当した2年高市優奈さん。中左：1年木村美穂さん。右：右から3年大崎耀平さん。3年保坂拓哉さん。3年リーダーの望月創太さん。